

# 《散歩》

公益社団法人 日本防犯設備協会 出入管理分科会 主査  
株式会社アート 技術本部技術開発部開発課 主任

片山 匠人



社会人になってから毎日の運動量が減り体重の増加ということが、私ももれなく該当してしまっていて、10年近く前から運動不足解消を目的に散歩をするようにしています。

平日時間があれば出勤時は最寄り駅から一駅、帰宅時最寄り駅より前におりて歩いたりしますが、大体は休日に10km以上を歩くようにしています。

散歩コースには木々が多くあり、2～3月には梅林の梅の花、3月末から4月頭はあちこちで咲いている桜、5月には藤棚の藤を見て季節を感じて歩いています。それだけでは10kmという長い距離を歩くという意味を保つのは難しいと思い、スマートホンで歩数や位置情報が要素となっているゲームアプリを遊んでいたりもします。

このアプリケーションのために、わざわざ小径に入ったり、遠回りをしてみたりと決めているコース以上に歩くこともよくあり、少しこのアプリケーションに操られているようでもあります。楽しく散歩を行っています。

そのように景色とスマートホンのアプリケーションを楽しむ一方で、どうしても仕事柄、建物の入り口付近に取り付いている機器が目に入ってきてしまいます。

「あっ、うちの会社のテンキーだな」とか「〇〇※さんの製品だ」（※会社名）とか思いながら歩いています。

その中で、ビル、工場などについては昔から電子機器のセキュリティ製品がついているのはありましたが、一般住宅の玄関扉、エントランス入り口にもセキュリティ製品（多くがノブと一体のもの）がついていることが増えてきていると感じています。

これはスマートホンのアプリケーションやカードでの施錠を行える機器が簡易に一般住宅の玄関扉に取付られるということで、機器導入のしやすさ、操作

のしやすさにより導入が進んできているのだと思われます。

それにより、セキュリティがより身近になってきているので、日本人のセキュリティ意識というものが高くなってきていると思われます。

セキュリティ意識が変わってきたもう一つの要因に、スマートホンの普及というのも大きくあると考えています。

スマートホンのロック画面解除のための暗証番号入力、パターン認証から始まり、現在では、生体認証（指紋、顔など）でも行えることでセキュリティというものがより身近なものとなってきています。また生体認証というものの意識も変わってきているとも思います。

機器導入のしやすさに関しては、コロナ禍ということで、商業施設の入り口、オフィスのビルの入り口、店舗の入り口などでは検温器、消毒液の噴霧器が設置しているのが当たり前になってきていますが、既設店舗への導入やコロナ禍の影響なのかお店の入れ替わりも多くあり、どの機器も設置や移動が直ぐにできるものとなっています。

これは、設備機器にも求められてくる可能性はあると思います。

これからのセキュリティ製品については、より簡易に導入・設置ができ、簡単な認証で且つ高セキュリティが求められることになると思われるので、スマートホンのアプリケーションとの連動や生体認証、一般住宅に設置して違和感のないデザインというものが必要となってくると思っています。

